

**日本人の色素性乾皮症 A 群のヘテロ接合体は皮膚がんのリスクが増加している
(色素性乾皮症遺伝子の保因者では皮膚がんのリスクが少し高いようだ)**

遺伝子が働かなくなって生じる病気のことを遺伝病と言います。色素性乾皮症 (XP) ^{しきそせいかんびしょう} *

もまれな遺伝病のひとつで、太陽光 (紫外線) に大変敏感で子どもの時から皮膚がんが多発するという特徴があります。色素性乾皮症の患者さんは、異常のある XP 遺伝子を両方の親からもらった人で、このような方の頻度は 2 万人にひとりくらいです。しかしこの異常な XP 遺伝子を片方の親からだけもらった方は太陽光への高感受性を示さず、保因者と呼ばれます。保因者は結構多くて 30 人にひとりくらいです。

今回の研究でわかったことは、この保因者では、歳をとってから顔や腕のような太陽にあたる部分に生じる皮膚がんの頻度が、一般の人に比べて少しだけ高いということでした。

私たちは平均して数 10 個の壊れた遺伝子を隠しもっている (保因者状態) と言われています。病気のなり易さには個人差がありますが、その一部にはこのような遺伝子の違いが関係しているのかも知れません。

* 色素性乾皮症とは

日光にさらされている部分の皮膚に、皮膚がんが普通の人の数千倍多く生じる病気。紫外線により DNA に生じた損傷を修復する遺伝子が働かなくなっているために発症する。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。